



2009年12月21日

株式会社博報堂  
代表取締役社長 成田純治様

社団法人 日本建築学会  
関東支部長 新宮 清志



### 「博報堂旧本館」についての保存要望書

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より、本会の活動につきましては、多大なご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、東京都千代田区神田錦町3-22にあります「博報堂旧本館」は、隣接する第一別館、道路を隔てた第二別館とともに、現在再開発計画の対象となっている旨、聞き及んでおります。すでに北側の増築部分から解体工事に着手されている模様ですが、旧本館についてはどのような方策があるのか熟慮されているとのことのお話しも伺っております。

ご承知のように、博報堂旧本館は、日本の近代建築、とりわけ昭和戦前期を代表する建築家のひとり、岡田信一郎（1883-1932）の最晩年を代表する作品のひとつとして知られており、建設を戸田組（現戸田建設）が担当し、1930年に竣工しました。鉄筋コンクリート3階建て（塔屋付き）と規模は決して大きくはありませんが、正面の4本のドリス式風の柱は、正面の高さ全体にわたる大オーダーという手法で、街路に対して建物をしっかりと印象づけています。また塔屋の直線的で繊細なアール・デコ風ともいべき装飾は、堂々としたなかに軽快な趣を与えています。西洋に脈々と流れる古代ギリシア・ローマの文化と当時最先端の動きでもあったアール・デコという同時代的な方向性を適切に採り入れていたといえる旧本館は、西洋建築に精通していた岡田の特色が遺憾なく発揮された建物であるとともに、当時の日本人建築家の西洋建築の理解をも提示しているといえます。遺作となった明治生命館（現明治安田生命館、1934。国指定重要文化財）は大規模で著名ではありますが、この博報堂旧本館も商業建築として岡田の力量をよく伝えており、さらに神田錦町のまちなみによく溶け込んでいます。

商業建築として今後の活用に少なからず問題を抱えていることは認識しておりますが、こうした優れた外観の意匠ならびに内部をもつ建物は、建築当初の姿が保存されてこそ意味を持ち、そのような意味では建物の現状を護りながらの保存と活用が最良と言えます。ただし、現在ではさまざまな方法が可能となっていることもご考慮いただき、貴下におかれましては、今後ともこの優れた由緒ある建物とまちなみの保存のため、建物の存続に格別のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

なお、日本建築学会関東支部といたしましては、この建物の保存に関してできる限りのご協力をさせていただく所存であることを申し添えます。

敬具



2009年12月21日

株式会社博報堂 DY ホールディングス  
代表取締役社長 戸田裕一様

社団法人 日本建築学会  
関東支部長 新宮



### 「博報堂旧本館」についての保存要望書

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より、本会の活動につきましては、多大なご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、東京都千代田区神田錦町3-22にあります「博報堂旧本館」は、隣接する第一別館、道路を隔てた第二別館とともに、現在再開発計画の対象となっている旨、聞き及んでおります。すでに北側の増築部分から解体工事に着手されている模様ですが、旧本館についてはどのような方策があるのか熟慮されているとのお話しも伺っております。

ご承知のように、博報堂旧本館は、日本の近代建築、とりわけ昭和戦前期を代表する建築家のひとり、岡田信一郎（1883-1932）の最晩年を代表する作品のひとつとして知られており、建設を戸田組（現戸田建設）が担当し、1930年に竣工しました。鉄筋コンクリート3階建て（塔屋付き）と規模は決して大きくはありませんが、正面の4本のドリス式風の柱は、正面の高さ全体にわたる大オーダーという手法で、街路に対して建物をしっかりと印象づけています。また塔屋の直線的で繊細なアール・デコ風ともいべき装飾は、堂々としたなかに軽快な趣を与えています。西洋に脈々と流れる古代ギリシア・ローマの文化と当時最先端の動きでもあったアール・デコという同時代的な方向性を適切に採り入れていたといえる旧本館は、西洋建築に精通していた岡田の特色が遺憾なく発揮された建物であるとともに、当時の日本人建築家の西洋建築の理解をも提示しているといえます。遺作となった明治生命館（現明治安田生命館、1934。国指定重要文化財）は大規模で著名ではありますが、この博報堂旧本館も商業建築として岡田の力量をよく伝えており、さらに神田錦町のまちなみによく溶け込んでいます。

商業建築として今後の活用に少なからず問題を抱えていることは認識しておりますが、こうした優れた外観の意匠ならびに内部をもつ建物は、建築当初の姿が保存されてこそ意味を持ち、そのような意味では建物の現状を護りながらの保存と活用が最良と言えます。ただし、現在ではさまざまな方法が可能となっていることもご考慮いただき、貴下におかれましては、今後ともこの優れた由緒ある建物とまちなみの保存のため、建物の存続に格別のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

なお、日本建築学会関東支部といたしましては、この建物の保存に関してできる限りのご協力をさせていただく所存であることを申し添えます。

敬具

博報堂旧本館は、『日本近代建築総覧』（日本建築学会、1980）でも重要建造物として高く評価されており、昭和戦前期の貴重な建物である。特にその外観意匠については、当時の日本の近代建築の水準の高さを現在に伝えており、重要な作品といえる。

博報堂旧本館は、博報堂の本社屋として、1930年に現在の神田錦町3-22に建設された。設計は岡田信一郎（1883-1932）、施工は戸田組（現戸田建設）である。創建時の規模は地上3階、地下1階の鉄筋コンクリート造であり、南東の隅に塔屋が設けられている。神田警察署通りに面する主要正面はドリス式風の円柱と角柱を4本ならべた列柱廊となっている。柱は3層の高さをもついわゆる大オーダーといわれる手法を採っており、この建築の特徴のひとつはこうした古典主義建築の表現にあるといえる。これに対して、塔屋は繊細な直線を主体にまとめられ、この部分はむしろアール・デコの20世紀の近代建築風の意匠をもっている。建物全体は本体と塔屋の大小ふたつの直方体が重ねられた構成で、規模は決して大きいとはいえないものの、様式の歴史的対比と簡潔な形態でまちなみのなかに存在感を示している。本作品の建築史的価値は、主に以下の2点に集約される。

#### 1. 建築家・岡田信一郎の最晩年の秀作としての価値

設計者の岡田は、大阪中之島の中央公会堂（1912、競技設計一等案）や東京府美術館（1925）などの公共建築、明治生命館（現明治安田生命館、1934）やこの博報堂旧本館を含むオフィスビル、青山小学校や東京府立第一高等女学校（ともに1927）など学校建築から住宅建築まで、多様な作品を残している。日本、西洋にかぎらず、歴史的様式に造詣が深く、歌舞伎座（1925）や虎屋（1932）などは和風コンクリート建築の代表作といえる。このように建築史に通じていたことから、岡田はともすればさまざまな過去様式を駆使して設計したことが強調されがちであるが、単にそれのみにとどまっていたわけではなく、新建築と呼んだ近代建築の時代的意義にも理解を示しており、とくに学校建築では装飾を省いた簡素な造形をみせていた。50歳で亡くなった岡田の設計活動はけっして長くはなかったが、この博報堂旧本館は、その最晩年に属する作品であり、そうした岡田の作風を良く示した秀作といえる。

#### 2. 古典主義様式と近代的なアール・デコを融合させた巧みな外観意匠

博報堂旧本館の正面のオーダーには、岡田の憧れでもあった西洋に脈々と流れる古代ギリシア・ローマの建築文化が表象されている。一方、塔屋には20世紀前半の当時には最先端の動きでもあったアール・デコという同時代的な方向性が適切に採り入れられており、岡田の意図は双方の流れの融合にあったことをうかがわせる。しかしこうした意匠的側面だけでなく、全体の形態に直方体を積み重ねたようなモダンなまとまりを与えている点にも注目する必要があるだろう。19世紀から20世紀にかけての歴史主義建築と近代建築という背景のなかで、19世紀後半から欧米のさまざまな建築を学ぶことを使命とされた昭和戦前期までの日本の建築家のなかであって、岡田は様式や形のもつ意味を理解し表現できた建築家であったとみなせる。岡田の建築は明治以降西洋建築を導入した日本建築界のひとつの到達を示している。

このように、博報堂旧本館はひとりの建築家の歴史的 Understanding を示しているとともに、昭和戦前期におかれていた日本の建築のありかたを提示している点でも重要である。